

|   |  |             |                        |
|---|--|-------------|------------------------|
| 授業科目名：<br>スポーツ社会学   | 教員の免許状取得のため<br>の選択科目                                     | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：海老島 均<br>担当形態：単独 |
| 実務内容<br>(実務家教員の場合)  |  |             |                        |
| 科 目   | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）                         |             |                        |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等   | 教科に関する専門的事項「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。） |             |                        |
| <p>「学位授与の方針」との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。</li> <li>・個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。</li> </ul>   |  |             |                        |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 近代スポーツの成り立ちと現代スポーツへの変遷の様相を説明できる。</li> <li>(2) 現代スポーツと社会や文化との関係性について例を挙げて説明できる。</li> <li>(3) 現代スポーツで生じている問題の社会・文化的背景について例を挙げて説明できる。</li> </ol>  |  |             |                        |
| <p>授業の概要</p> <p>現代のスポーツは、単なる個人的な営みをはるかに超えて、社会とのつながりを強く持つようになってきた。本授業では、スポーツの社会的意味や現在話題になっているスポーツ現象を中心に、わかりやすく、するスポーツ、みるスポーツ、支えるスポーツについて説明していく。また、スポーツをめぐる様々な問題点を通して、スポーツと社会の関連を捉え、文化の視点から考察していく。</p>  |  |             |                        |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：近代スポーツの成立と展開<br/> 第2回：文化としてのスポーツ<br/> 第3回：日本のスポーツ文化<br/> 第4回：グローバル化するスポーツ<br/> 第5回：アダプテッドスポーツ<br/> 第6回：スポーツとジェンダー<br/> 第7回：スポーツと教育<br/> 第8回：スポーツと社会化<br/> 第9回：スポーツ・ファンの文化<br/> 第10回：スポーツ・フォー・オール<br/> 第11回：スポーツと地域社会<br/> 第12回：職業としてのスポーツ<br/> 第13回：スポーツと政治・権力<br/> 第14回：スポーツとドーピング<br/> 第15回：スポーツとナショナリズム</p> |  |             |                        |

定期試験

\*スクーリングは第1・2・5・6回の内容が中心となる。

スクーリングでの学修内容

近代スポーツの成立と発展、グローバル化の様相、文化としてのスポーツの捉え方、障害者や女性のスポーツの近現代を中心に解説していく。アクティブラーニングの手法も用いる。  
(第1回、第2回、第4回、第5回、第6回の内容を主とし、他の回の内容も交えて講義する。)

テキスト

井上 俊・菊 幸一編著「よくわかるスポーツ文化論」(改訂版)、ミネルヴァ書房、2020

参考書・参考資料等

菊 幸一ほか編著「現代スポーツのパースペクティブ」大修館書店、2006

他は必要に応じて適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート評価(25%)、スクーリング評価(25%)、科目修得試験(50%)の割合で総合して評価する。